

(様式例)

## 令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立道塚小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

・ 単元ごとの漢字テストなど、反復的な練習を取り入れることで、言葉の使い方や言語文化に関する事項などの「知識・技能」は、正答率が高かった。

#### (2) 課題

・ 「書くこと」では、全ての学年で目標値を下回る結果となった。文章の順序や構成についての理解が不十分と考えられる。大田区国語部発行の「書くって楽しいね」を積極的に活用することで、書く機会を設ける。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	▽全ての観点 特に「書くこと」が大幅に下回った。		
第5学年	▲「読むこと」 ▽それ以外の全ての観点。特に、「情報」が大幅に下回った。	▽全ての観点 特に「書くこと」が大幅に下回った。 (第4学年時)	
第6学年	▲全ての観点 特に、「話すこと・聞くこと」は大幅に上回った。	▽全ての観点 特に「書くこと」が大幅に下回った。 (第5学年時)	▲全ての観点  (第4学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大幅に下回っている。	目標値を大幅に下回っている。	目標値を大幅に下回っている。

##### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値と同程度であり、知識・技能の定着が認められる。	目標値と同程度、または少し上回る程度である。	目標値と同程度、または少し上回る程度である。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### （1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の配当漢字については、ドリル・単元ごとの小テストを活用し、繰り返しの練習をさせ、定着を図る。</li> <li>年2回の大田区漢字検定に向けて、過去問題に取り組みせ、漢字のつくりや字体について身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話し方・聞き方」を教室内に掲示し、伝え合う際に意識させる。</li> <li>「書くって楽しいね」を活用し、語と語や文と文との続き方など、基本的な文章の書き方を身に付けさせる。</li> <li>物語文や説明文を読んだ後に、好きな場面のことや疑問点などを、理由とともに書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室での貸出を週に2冊とし、本に親しむ機会を増やす。</li> <li>教科の学習進度に合わせた並行読書を推奨する。</li> <li>「家読カード」の追加用紙を用意したり、6年間継続して記録を蓄積させたり、読書への関心を喚起する。</li> </ul>

#### （2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の配当漢字については、ドリル・単元ごとの小テストを活用し、繰り返しの練習をさせ、定着を図る。</li> <li>読みの指導の中で、言葉の特徴や使い方に関する内容を取り上げ、語感や言葉の使い方に関する感覚を磨く。</li> <li>国語辞典や漢字辞典を日常的に活用させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉の宝箱」を教室内に掲示し、話したり、書いたりする際に活用させる。</li> <li>「書くって楽しいね」を活用し、伝えたいことを筋道立ててまとめる力を身に付けさせる。</li> <li>説明文の学習で、筆者の考えに対する自分の意見とその理由を書く活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室での貸出を週に2冊とし、本に親しむ機会を増やす。</li> <li>教科の学習進度に合わせた並行読書を推奨する。</li> <li>「家読カード」の追加用紙を用意したり、6年間継続して記録を蓄積させたり、読書への関心を喚起する。</li> </ul>

#### （3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の配当漢字については、ドリル・単元ごとの小テストを活用し、繰り返しの練習をさせ、定着を図る。</li> <li>年2回の大田区漢字検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉の宝箱」を教室内に掲示し、話したり、文章を書いたりする際に活用させる。</li> <li>「書くって楽しいね」を活用し、感想や意見を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室での貸出を週に2冊とし、本に親しむ機会を増やす。</li> <li>教科の学習進度に合わせた並行読書を推奨する。</li> </ul>

<p>定に向けて、過去問題に取り組ませ、漢字のつくりや字体について身に付けさせる。</p>	<p>書く機会を多く設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 問題文や説明文の初発や終末の感想を書かせるときに、文字数や取り入りたい表現、構成の例などを提示して書かせるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「家読カード」の追加用紙を用意したり、6年間継続して記録を蓄積させたり、読書への関心を喚起する。</li></ul>
---	--	--